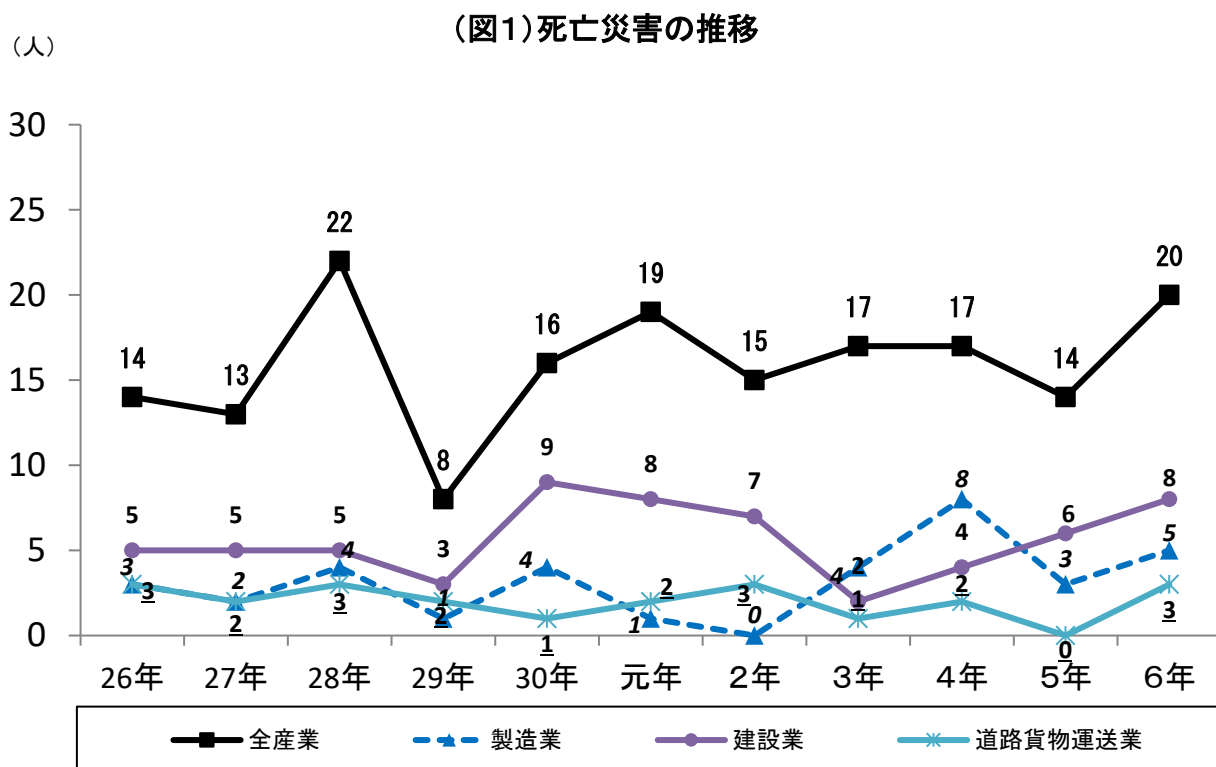


—令和6年 労働災害発生状況—

1 死亡災害について

- (1) 令和6年(令和6年1月から12月まで)の労働災害での死亡者数は20人で、前年と比較して6人増となりました(図1)。



- (2) 業種別にみると、建設業が8人(40.0%)と最も多く、次いで、製造業が5人となっています(表1)。

(表1)業種別死亡災害発生状況

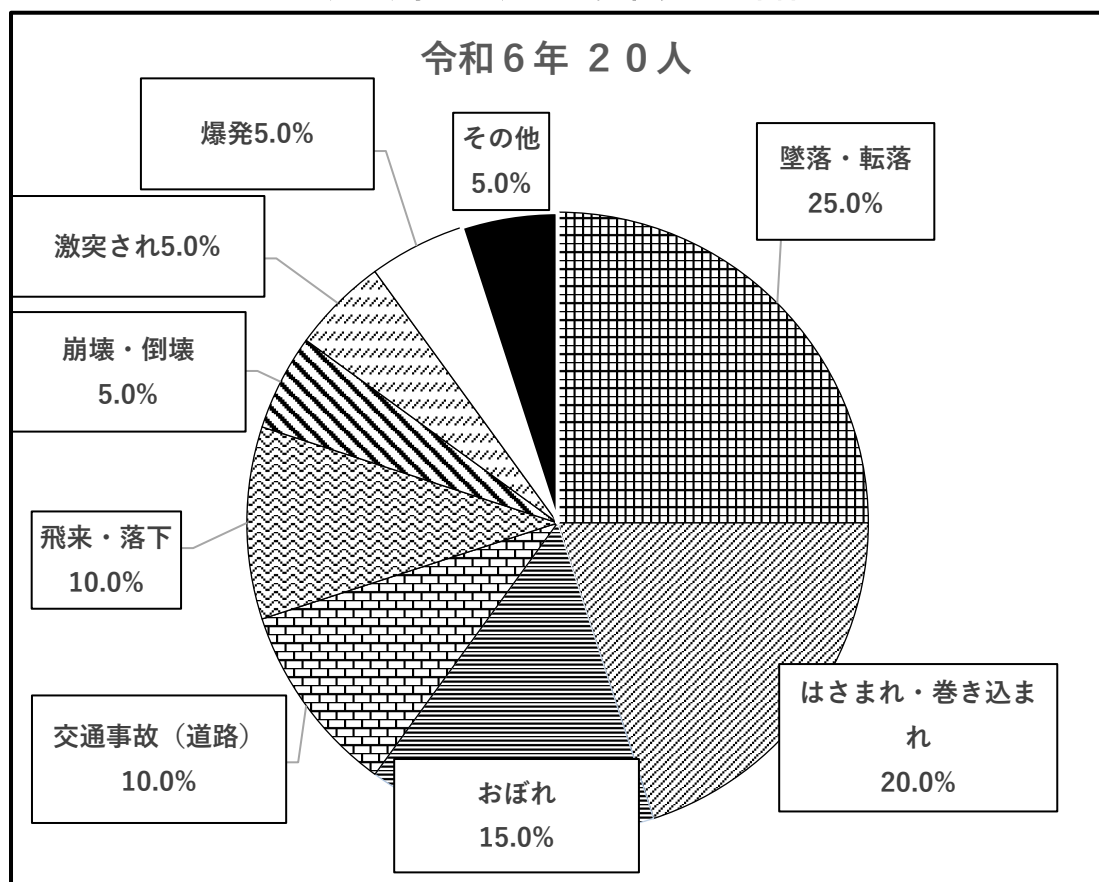
	製造業	建設業	道路貨物運送事業	農林業	鉱業	その他の業種	計
令和6年	5	8	3	0	0	4	20
令和5年	3	6	0	1	1	3	14

- (3) 事故の型別にみると「墜落・転落」で5人、「はさまれ・巻き込まれ」で4人、「おぼれ」で3人、「交通事故(道路)」及び「飛来・落下」でそれぞれ2人となっています(表2、図2)。

(表2)事故型別死亡災害発生状況

事故の型別	令和6年	令和5年	前年比(人)
墜落・転落	5	3	+2
はさまれ・巻き込まれ	4	2	+2
おぼれ	3	2	+1
交通事故(道路)	2	2	±0
飛来・落下	2	0	+2
崩壊・倒壊	1	0	+1
激突され	1	0	+1
爆発	1	1	±0
その他	1	4	-3
合 計	20	14	+6

(図2)事故型別死亡災害発生の割合

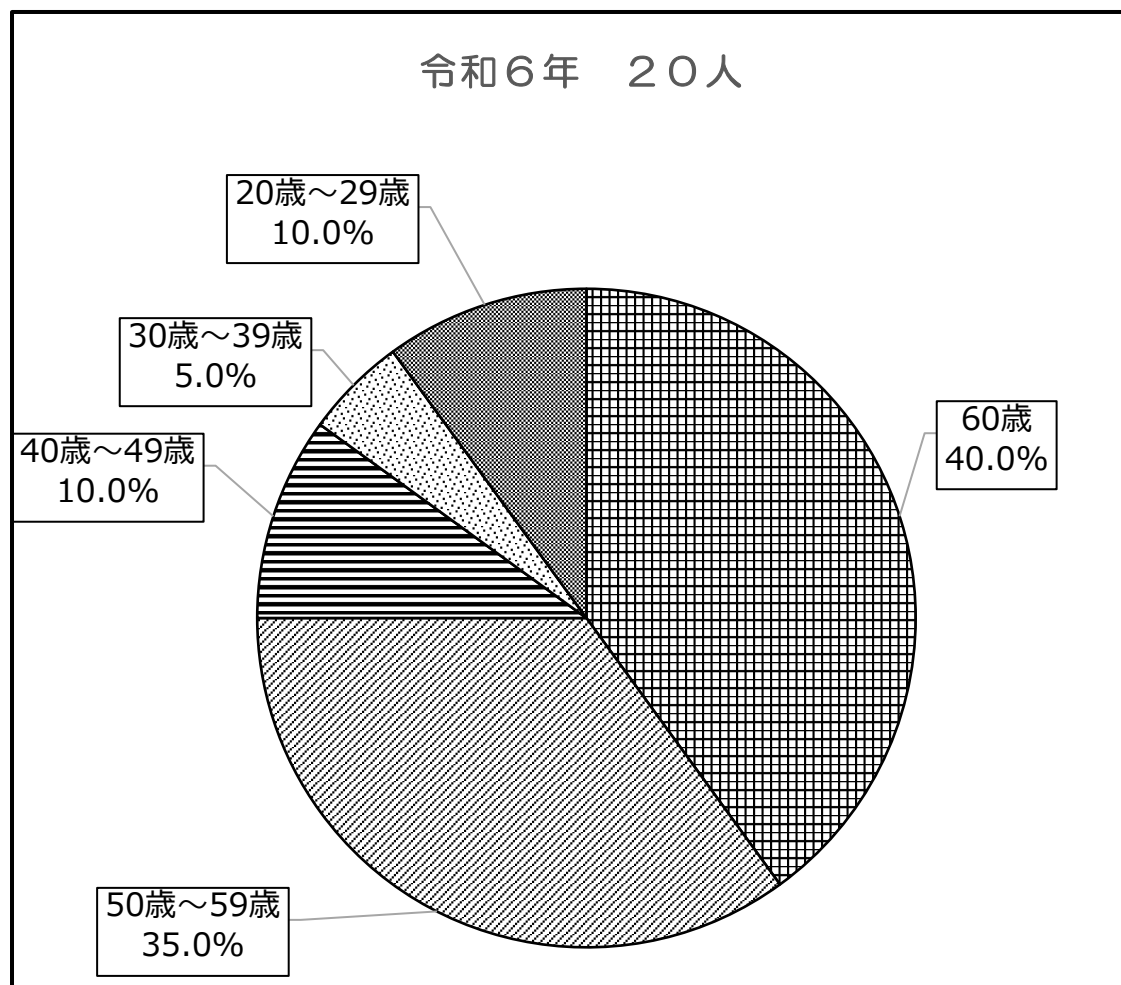


- (4) 年齢別にみると、60歳以上が8人、50歳～59歳が7人、40歳～49歳及び20歳～29歳がそれぞれ2人、30歳～39歳が1人となっています(表3、図3)。

(表3)年齢別死亡災害発生状況

年齢別	令和6年	令和5年	前年比(人)
～19歳	0	0	±0
20歳～29歳	2	1	+1
30歳～39歳	1	1	±0
40歳～49歳	2	2	±0
50歳～59歳	7	4	+3
60歳～	8	6	+2
合 計	20	14	+6

(図3)年齢別死亡災害発生の割合



令和6年 業種別死亡災害発生状況

○製 造 業

No.	発生月	発 生 状 況
1	2月	普通旋盤により、加工材の金属部品を回転させた状態で、両手でサンドペーパーを加工材に押し当てながら表面仕上げ作業を行っていたところ、左手に着用していた軍手が、回転中の加工材に巻き込まれ、その勢いで当該旋盤のチャック部に頭部を打ちつけた。 [20 歳代]
2	3月	鉄枠(重量 1833.7Kg、以下「荷」という。)に塗装前の下地塗りをするため、天井クレーンで荷を吊り上げ、鉄枠内部に溜まった水抜きを行っていた。スリングベルト1本を折り重ねて荷の1箇所玉掛けし、荷を吊り上げた状態で水抜きしていたところ、突然スリングベルトが切れて荷が落下し、荷の近くで作業をしていた被災者が下敷きとなった。 [50 歳代]
3	6月	冷蔵庫(重さ 40Kg)を1階から2階の休憩室に二人で運搬していたところ、階段の踊場で冷蔵庫を持ち上げた際に、後ろ向きの状態で1階まで転落した。 [60 歳代]
4	6月	4tトラックから搬出するため、空のプラスチックタンクを当該トラックの荷台後方へ引き出していたところ、荷台から地面へ後ろ向きに墜落したものの。 [60 歳代]
5	12 月	古紙回収用パッカー車の後部投入口の機械作動部の圧縮板に足を巻き込まれ、身動きが取れずに救助を求めている被災者を発見し、救助しようと、操作を行った際に機械作動部の圧縮板によって胸部まで車両積載部の奥に巻き込まれた。 [50 歳代]

○建 設 業

No.	発生月	発 生 状 況
1	3月	アスファルトフィニッシャーを用いてアスファルトの敷き均し作業が終了したので、アスファルトフィニッシャーを場外の駐車場に移動させていたところ、歩道縁石に接触するため、運転手が後進した際、アスファルトフィニッシャーの後方で作業をしていた被災者がアスファルトフィニッシャーの後部と電柱の間にはさまれた。 [50 歳代]

2	3月	河川本流左岸の仮締切施工部の仮堤を撤去するため、被災者単独でドラグ・ショベルを用いて右岸での作業後、本流河川内の右岸から左岸へ渡ろうと下流左岸側に走行していたところ、川床が崩れ、水流で削られた水深約3mの川底の深みに向けてドラグ・ショベルが横転し、水没したことにより溺死した。 [50 歳代]
3	6月	工事見積書作成のため、単独で山林の踏査に向かった労働者が翌日になっても戻らず、捜索したところ山林内で倒れていたところを発見した。外傷の状況から熊に襲われたものとみられる。 [50 歳代]
4	6月	改修工事現場内において、作業員2名が身体障害者トイレ及び地下ピット付近で配管撤去作業を行っていたところ、爆発が発生したもの。 [30 歳代]
5	8月	県道の路上において、樹木の枝打ち作業に伴う片側交互通行の交通誘導を行っていたところ、乗用車に轢かれた。 [70 歳代]
6	9月	屋上防水改修工事現場内において、被災者が3階屋上部(高さ 11.0m)で塩ビシートを剥がす作業中に墜落したもの。被災者が作業を行っていた3階屋上部の作業床の周囲には、高さ 36.5cm のパラペットがあった。 [50 歳代]
7	10 月	神社の玉垣基礎工事現場内において、親柱の基礎部分の下方の土をスコップを用いて掘削作業中、親柱が被災労働者側に倒れ、下敷きとなった。 [20 歳代]
8	11 月	ゴルフ場の枯れ木の伐採等の作業において、被災者は伐倒木の枝打ち後の枝の運搬作業に従事していた。当該伐倒木がのり面上に斜めに横たわっており、被災者が枝の回収のため伐倒木の下方に入ったところ、当該伐倒木が転がり始め被災者に接触した。 [80 歳代]

○そ の 他

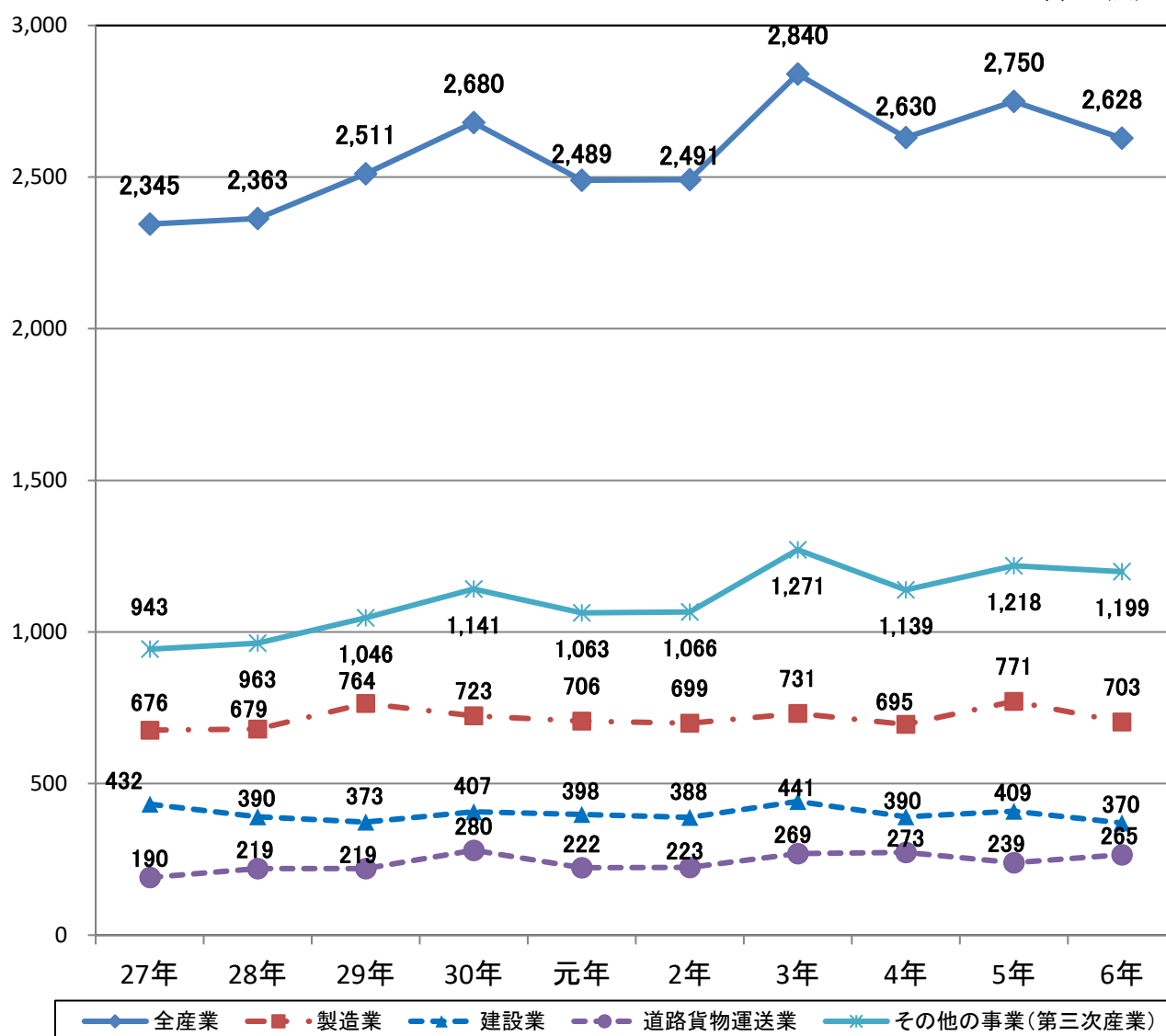
No.	発生月	発 生 状 況
1	1月	大型貨物自動車の荷台に、フレキシブルコンテナバッグ(丸形1t用)を2段積みし、シート掛け作業を行っていたところ、1段目のフレキシブルコンテナバッグ上から地上に墜落した(推定)。作業時には、保護帽を着用しておらず、また、墜落制止用器具も使用していなかった。 [60 歳代]
2	5月	倉庫内に建材を荷降ろしするため、トラックをバックで停車させて運転席から降りて倉庫のシャッターを開けていたところ、トラックの逸走がはじまり、その後部にいた被災者が、トラックと建物にはさまれた。 [40 歳代]
3	6月	漁船に3人が乗船し、網を投入する沖合に移動した。所定の場所に到着後、船尾より網の投入をしていた際、被災者の姿が見えなくなったため、船尾より確認したところ、海中(深さ3m 程度)で被災者が足に網が絡まった状態で発見された。 [70 歳代]
4	7月	地上においてマンホール内の保守点検作業を一人で行っていた。終業時刻になっても帰社しないことから、従業員で捜したところ、マンホール内(深さ約4メートル)で倒れている被災者を発見した。 [40 歳代]
5	8月	海水浴場にて管理員として海水浴客の監視を行っていた際に、海で泳いでいた男性客が波に流されたように見えたことから、救助のために海に入ったところおぼれた。 [70 歳代]
6	9月	出張先の構内において、荷卸しのためトラックを停止し、後部観音扉を開けたとき、被災者にパレット荷物(220kg 程)が落下してきて当たり転倒、負傷したもの。 [50 歳代]
7	11 月	トラックを運転して高速道路を走行していたところ、高速道路の右ガードロープに衝突した。 [60 歳代]

2 令和6年における休業4日以上之死傷災害発生状況

- (1) 令和6年(令和6年1月から12月まで)の労働災害による休業4日以上之死傷者数は2,628人で、前年と比較して122人(4.4%)の減少となりました(図4)。
- (2) 業種別にみると、その他の事業(第三次産業等)が1,199人(45.6%)と最も多くを占め、次いで、製造業が703人(26.8%)、建設業が370人(14.1%)、道路貨物運送業が265人(10.1%)となっています(図4)。

(図4)休業4日以上之死傷災害の推移

単位：(人)



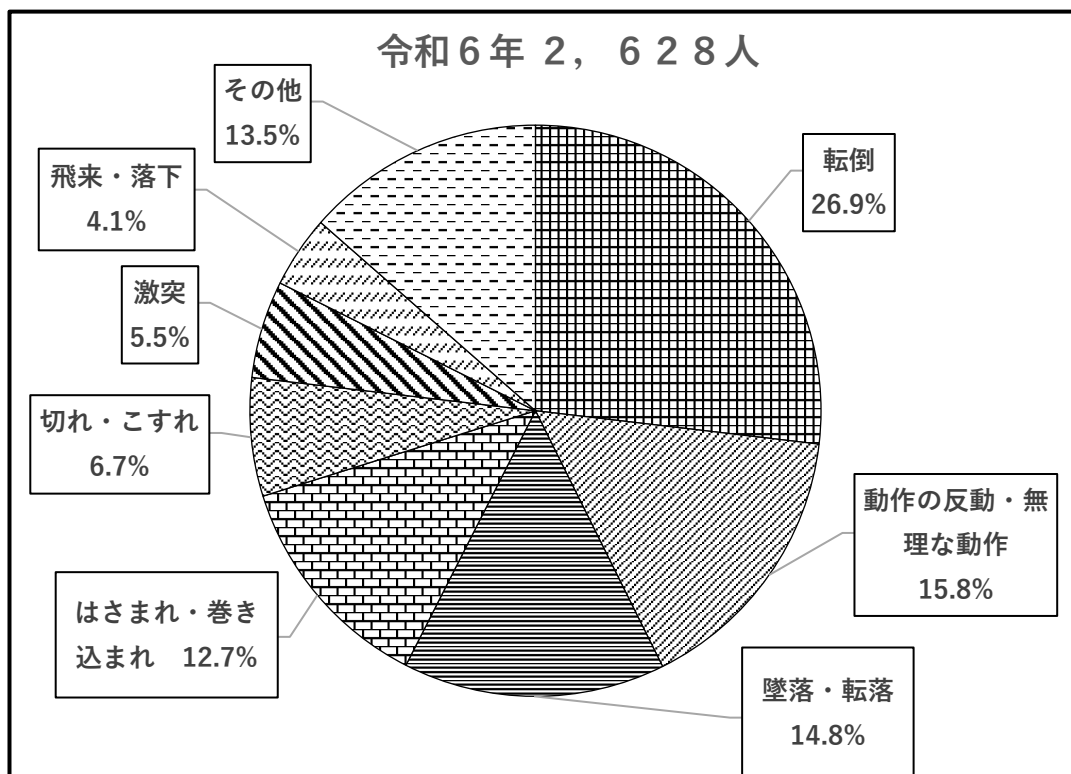
- (3) 事故の型別にみると、「転倒」の 706 人が最も多く全体の 26.9%を占めています。
 次に「動作の反動・無理な動作」が 415 人(15.8%)、「墜落・転落」が 390 人(14.8%)、
 「はさまれ・巻き込まれ」が 333 人(12.7%)、となっています(表4、図5)。

(表4)主な事故型別死傷災害発生状況

	令和6年	令和5年	前年比(人)
全産業	2, 628	2, 750	－122

事 故 の 型 別	令和6年	令和5年	前年比(人)
転倒	706	800	－94
動作の反動・無理な動作	415	355	＋60
墜落・転落	390	400	－10
はさまれ・巻き込まれ	333	351	－18
切れ・こすれ	176	205	－29
激突	145	120	＋25
飛来・落下	107	121	－14
その他	356	398	－42

(図5)事故型別死傷災害発生の割合



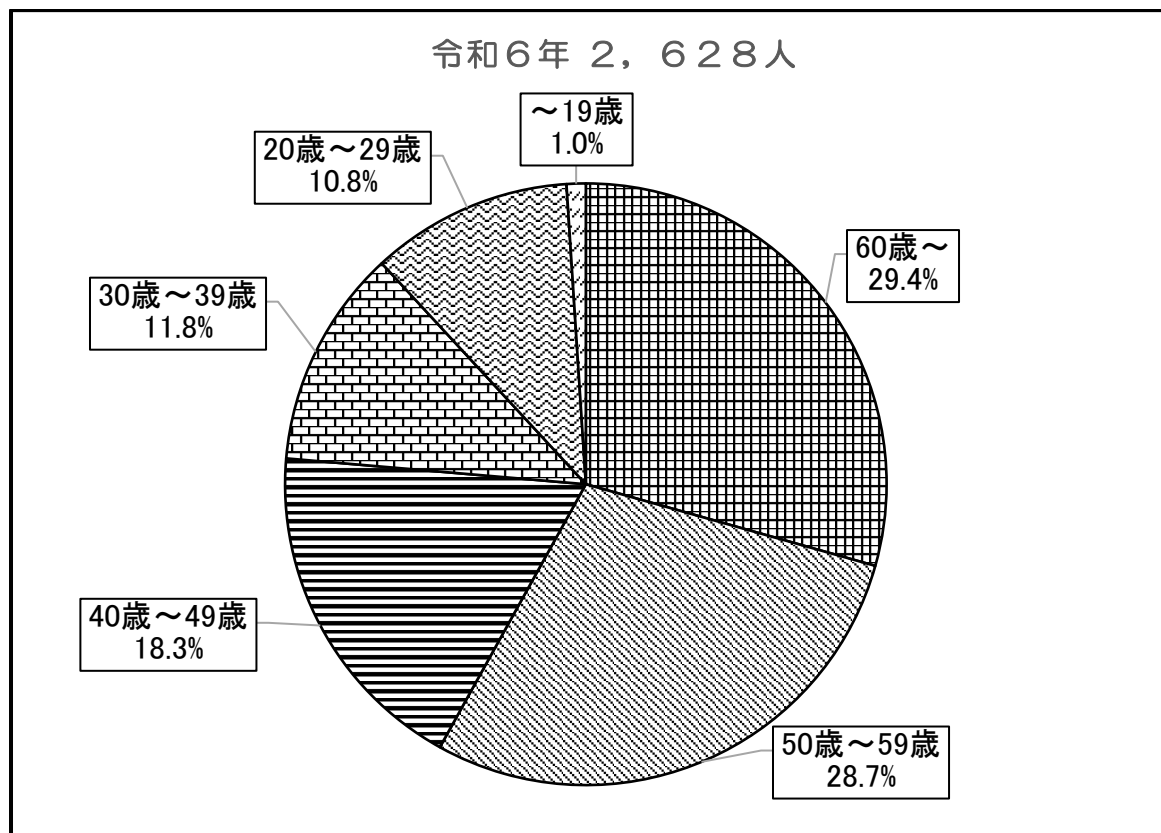
(4) 年齢別にみると、60 歳以上が 772 人と最も多く 29.4%を占め、次いで 50 歳～59 歳が 754 人で 28.7%を占めています。

また、60 歳未満の災害は減少に転じましたが、60 歳以上の災害は増加しています。
(表5、図6)。

(表5)年齢別死傷災害発生状況

年齢別	令和6年	令和5年	前年比(人)
～19 歳	27	50	－23
20 歳～29 歳	285	315	－30
30 歳～39 歳	309	323	－14
40 歳～49 歳	481	536	－55
50 歳～59 歳	754	760	－6
60 歳～	772	766	＋6
合 計	2,628	2, 750	－122

(図6)年齢別死傷災害発生の割合



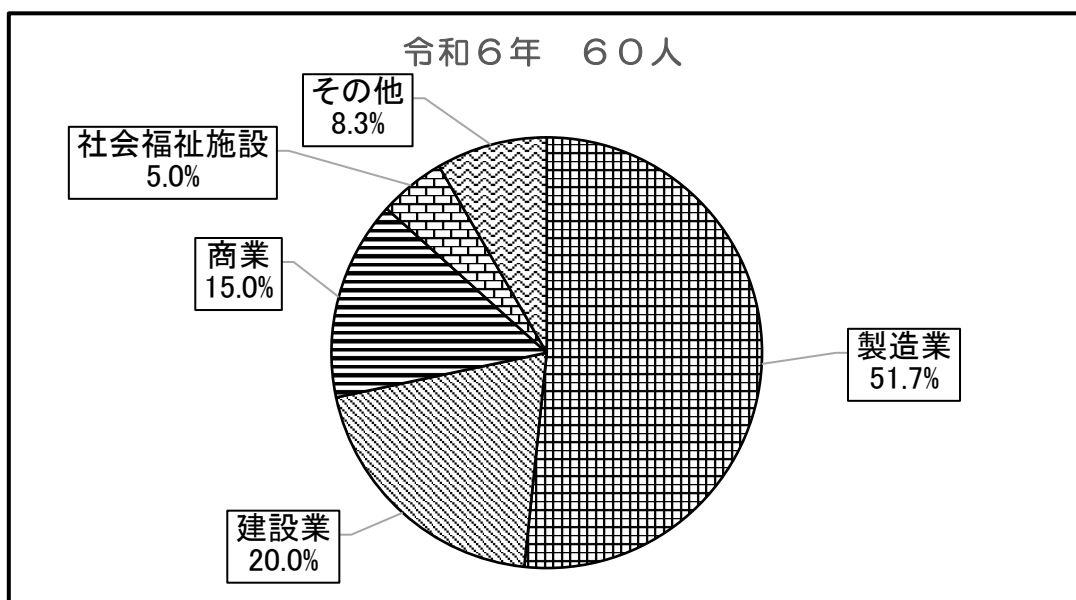
(5) 外国人労働者の休業4日以上之死傷災害発生状況

外国人労働者の死傷者数は 60 人と前年に比べ6人増加した。

(表6)外国人労働者の死傷災害発生状況

	令和6年	令和5年	前年比(人)
製造業	31	29	+2
建設業	12	11	+1
商業	9	5	+4
社会福祉施設	3	6	-3
その他	5	3	+2
合 計	60	54	+6

(図7)業種別外国人労働者の死傷災害発生の割合



(表7)外国人労働者の事故の型別死傷災害発生状況

事故の型別	令和6年	令和5年	前年比(人)
はさまれ・巻き込まれ	13	11	+2
切れ・こすれ	13	8	+5
転倒	8	10	-2
墜落・転落	7	3	+4
飛来・落下	6	9	-3
動作の反動・無理な動作	6	4	+2
その他	7	9	-2
合 計	60	54	+6

(図8)事故の型別外国人労働者の死傷災害発生割合

